

順天堂大学図書館における フルテキストジャーナル利用統計の分析

志村直子
順天堂大学図書館

I. はじめに

順天堂大学図書館（以下当館）では、1999年よりさまざまな電子ジャーナルを購入し、利用している。以来、図書館利用者に電子ジャーナルが浸透していくにつれて、冊子体の複写件数が劇的に減少している。

しかし電子ジャーナルは、本当に利用者の役に立っているのだろうか、そしてそれはどの程度なのだろうか、という疑問を、私は感じていた。冊子体の利用が減少した分、雑誌がどのように利用者に使われているかが見えにくくなったこともある。

それを明らかにするひとつの方法として、電子ジャーナルの利用統計を使うことを考えた。それは、雑誌ごとに、あるいは出版社ごとに、ほとんどのホームページで手にいれることができる。それを分析することで、利用者の電子ジャーナル利用状況を明らかにできるのではないかと思い、特にフルテキスト（HTML および PDF）の利用に注目して、分析を試みた。

II. 分析方法

調査の対象とする雑誌は、2003年に当館で購読した外国雑誌および国内欧文誌 444 誌とした。

利用統計の分析対象範囲は 2003 年 1 月から 12 月とし、入手可能なものはなるべく入手した。

分析の観点としては、

1. 当館の購読雑誌のうち、
 - 電子ジャーナルが読める割合。
 - PubMed に収録されている雑誌の割合。
 - 入手できた電子ジャーナルの利用統計から、フルテキストがよく使われているタイトル。
2. パッケージの電子ジャーナルの場合、
 - 当館の購読雑誌の割合と、その利用数の割合。
 - 利用されていない雑誌の割合。
 - 購読していない雑誌の利用に注目すべき点はあるか。
3. そのほか統計を分析して気づいた点を報告する。

参考文献

平吹佳代子. 慶應義塾大学における電子ジャーナル利用状況統計分析. 医学図書館 2002;49(2):160-166.